

コンキスタドール

自民党総務会副会長
名誉顧問 藤井基之



旧世界、すなわちヨーロッパの西端にはイベリア半島があります。現在の世界地図でいえば、スペインとポルトガルがあるところですね。その北側は険峻なピレネー山脈によりフランス側と隔てられており、南側はジブラルタル海峡をはさんでアフリカ大陸に臨んでいます。

イベリア半島には、七世紀まではキリスト教の国家が成立していました。しかし、八世紀初頭、ジブラルタル海峡を越えてイスラム教の国が侵攻し、わずか数年のうちにイベリア半島のほぼ全域を支配してしまいました。

しかし、ここからキリスト教系国家による再征服運動、レコンキスタが始まります。レコンキスタとは、異教徒に奪われた国土を回復するための運動のことです。

レコンキスタは、七十八年に始まり、一四九二年に終わりましたので、七十五年もの長きにわたって行われたこととなります。人間の一つの世代を二十五年とすると、これは三十一世代に相当しますから、気の遠くなるような長い期間ですね。

視点を変えて、イスラムの民の目線から見てみると、三十一世代も前のことに言いがかりをつけ、先祖伝来の地を奪いにくるわけですから、キリスト教国家の方こそ侵略者であると思えなかつたことでしょう。

ともあれ、キリスト教国家であるスペイン王国とポルトガル王国がイベリア半島の全域を占領したことをもって、レコンキスタは終焉を迎えました。しかし、これまで七十五年間にもわたって、再征服運動をしてきたわけですから、すぐさま平和な暮らしに慣れるはずありません。イベリア半島の民族的熱狂は新大陸の征服事業へと受け継がれることとなります。

一四九二年、コロンブスが新大陸、アメリカ大陸を発見したことをきっかけとして、スペイン王国は新世界の征服事業に乗り出しました。スペインの港からは、新世界の征服者、コンキスタドールと呼ばれる人たちを乗せた船団が次々と新世界に向けて出航していきました。コンキスタドールたちは、新世界の沿

岸部に多くの都市を建設し、侵攻の拠点としましたが、そのような侵攻拠点の一つにパナマがありました。

パナマの北西方向にはユカタン半島があり、そこには、アステカ帝国が成立していました。アステカは繁栄を極め、その都市には財宝があふれていたことから、コンキスタドールの一人、コルテスはさっそくこれに目をつけ、武装兵を引き連れて財宝の略奪に出発しました。

コルテスの兵団はわずか五百名にすぎませんでしたが、彼のスペイン式軍隊はアステカの戦士たちを大いに驚かせました。

ピカピカ光る甲冑に身を包んだ兵士たちは地獄の騎士のように見えたでしょう。落雷のような音響を発する筒、鉄砲も装備していました。

何より驚愕させたのは馬の存在です。なにしろ新大陸には馬が生息していませんでしたから、これにまたがるスペインの騎士たちは神々しく、あるいは禍々しい悪魔のように見えたことでしょう。恐ろしい兵団の接近を知ったアステカ

の王は、なんとか和平の道を探ろうとしました。コルテスの目的はアステカの財宝を根こそぎ奪うことでしたから、両者の思惑が一致するわけはありません。

当初はスペイン人にとっても友好的に接していたアステカ人でしたが、度重なるコルテスの暴虐にとうとう堪忍袋の緒が切れ、コルテスとの決戦に及びました。アステカの首都テノチティランの戦いで、コルテスの軍隊は、散々に打ち負かされてしまいました。

軍馬はいざことなく逃げ去ってしまい、彼らは仕方なくとぼとぼ歩いて退却していきました。

こうしてアステカ帝国の誇りと栄華が守られたかといえば、そうではありません。スペイン人はとんでもないものをアステカに置いていったのです。その置き土

産とは、天然痘です。

新世界には、それまで天然痘という病気が存在していませんでしたから、誰もこれに対する抵抗力を持ちあわせていません。

二世紀のヨーロッパ世界で天然痘が暴れまわったように、いやそれ以上の悪魔的な災厄をアステカ帝国にもたらしました。アステカの皇帝をはじめ、司祭や戦士、民衆のほとんどが天然痘により命を落とし、国としての機能を完全に喪失してしまつたのです。

コルテスの再度の侵攻のときには組織だった抵抗もできず、あっさり滅んでしまいました。一五二一年ですから、レコンキスタの終焉後、わずか二十九年後のことです。

天然痘の災厄はこれだけにとどまらず、

その後のわずか数十年間でアステカの先住民の人口は一割以下にまで減少してしまいました。

コンキスタドールたちは、大虐殺を目的に新世界を侵略したわけではないのでしようが、意図せずして持ち込んでしまった天然痘によって、アステカ帝国やインカ帝国を含め、南アメリカ大陸全域において、何千万人もの先住民の命が奪われてしまったといわれています。そして、彼らの生命とともに、新世界の偉大な文明も永遠に失われてしまいました。

ところで、天然痘の悪魔的所業は、これで終止符が打たれたわけではありません。これを兵器として使った侵略者が現れたのです。そして再び多くの人々の命を奪っていきました。

これについては来月の話としましょう。

ふじいもとゆき 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 3回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師

私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
- 平成13年 参議院議員(1期目)
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
- 平成22年 参議院議員(2期目)
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
- 平成24年 自由民主党広報本部 副本部長
広報本部新聞 出版局長
- 平成25年 自由民主党党紀委員会 委員
裁判官弾劾裁判所 裁判員
- 平成26年 原子力問題特別委員会 委員長
文部科学副大臣
- 平成27年 自民党政務調査会 副会長
参議院政策審議会 筆頭副会長
国民生活のためのデフレ脱却及び
財政再建に関する調査会 委員
参議院厚生労働委員会 委員
- 現在 国土審議会 離島振興対策分科会 特別委員
参議院議員(3期目)
自民党総務会 副会長